



## 臨床研究に関する情報の公開

作成日:2017/05/16

研究課題名	パーキンソン病に対する脳深部刺激療法が認知機能、精神状態へ与える影響 (視床下核に対する脳深部刺激療法における導線と刺激電極の位置および刺激の強度と、術後の認知機能の変化との関係を調べる研究)
研究の対象	2005年1月1日以降に当院で視床下核に対する脳深部刺激療法を受けられた患者さん。
研究目的・方法	1. 研究の目的・意義 視床下核への脳深部刺激療法において、術前から術後への認知機能の変化を調べ、脳内での導線や刺激電極の位置、電気刺激の強度が術後の認知機能の変化と関係しているかを調べるのが目的です。 この研究の結果は脳深部刺激療法がより安全に、より適切に患者さんへ提供されることへ貢献すると考えています。 2. 研究の方法・期間 研究デザイン:既存のカルテ情報を用いる観察研究 研究機関: 公益財団法人田附興風会北野病院 研究期間: 許可日より3年間(予定)
研究に用いる試料・情報の種類	検討項目: a) 画像 頭部CT画像、頭部MRI画像 b) 認知機能検査 Wechsler Adult Intelligence Scale-Third Edition: WAIS-III Wechsler Memory Scale-Revised: WMS-R Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome: BADS Mini mental state examination: MMSE 長谷川式簡易評価スケール、Frontal assessment battery: FAB など c) 心理検査: STAI、ハミルトンうつ病評価尺度 など d) 運動機能評価 Hoehn and Yahr 分類、Unified Parkinson's Disease Rating Scale: UPDRS など e) 手術記録、カルテ記録(電気刺激の設定に関する記載、精神症状の記載など)
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 神経精神科 客員研究員 深尾 真由子 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 神経内科 副部長 斎木 英資 電話 06-6312-1221(代)